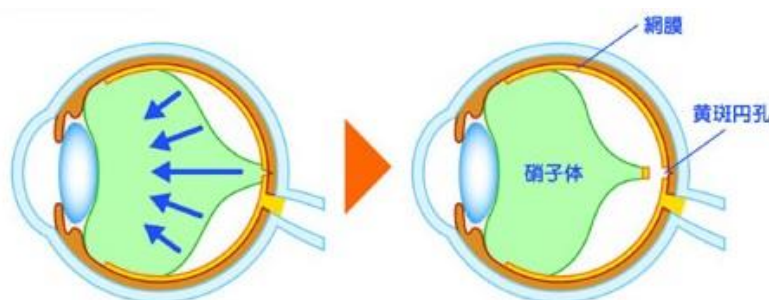


病気の説明： 黄斑円孔について

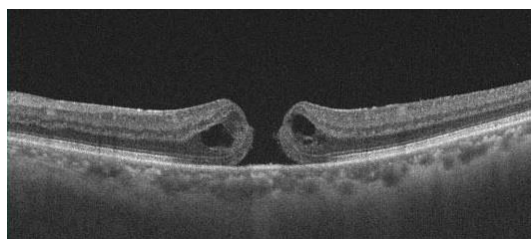
- 眼球の中の大半の空間には透明なコラーゲンのゼリー（硝子体）があり、元々若いころ（10～20 歳代）には眼球の中をほぼ満たしています。その頃は硝子体と網膜は接着しています。
- しかし、年齢による変化に伴い、硝子体は徐々に縮んでいき、網膜の表面から外れていきます。その際、網膜の中心部分である黄斑の部分で硝子体と網膜の接着が比較的強い人の場合、硝子体が外れる際に黄斑の網膜に孔が開いてしまうことがあります。

この病気になると、ものが歪んで見えるようになったり、視界の中心部分が見づらくなり、視力が比較的急に低下していきます。



- この病気で失明することは、ほぼありませんが、見え方に不自由を感じるならば、手術治療をお勧めいたします。まれに自然経過で治る場合もありますが、大抵は手術をしないと治りませんし、手術を受けるなら早い方が術後成績も良いです。手術によって視界の歪みが完全に治るわけではないですが、軽減するケースが多く見られます。ただし、発症後長期に放置された黄斑円孔の場合など、治療をしても視力が改善する見込みの少ない方には、敢えて手術をお勧めしない場合もあります。

◇ 黄斑円孔 術前 矯正視力(0. 1)



◇ 黄斑円孔 術後 矯正視力(0. 4)

